

導入事例

Case Study

ディスクシュレッダー[®] Disk Shredder 4

 **大陽工業株式会社**
TAIYO KOGYO CO., LTD.
<http://www.bunsha.co.jp/>

社内でのPC再利用やリース物件で ディスクシュレッダーを利用し、 機密データの漏洩防止に大きく貢献。

PCの廃棄などに対する従来の取り組みは どのようなものでしたか。

これまで、使用しなくなったPCについては、重要ファイルを削除したうえで、自社の工場へ送り、工場内で再利用してきました。今でいうリユースです。

再利用できないPCについては、工場で保管したり、工場の専門スタッフが廃棄物といっしょに処理してきました。

データ消去を行うようになったきっかけを おしえてください。

昨年7月のことですが、経理部で使っている財務会計ソフトのバージョンアップがそのきっかけです。

新しいバージョンを入れるには、7年近く使っていたPCでは古くて対応できないことがわかり、リプレースすることに決めました。その古いPCの一部がリース物件だったために、データ消去を行う必要性が出てきたのです。

と同時に、従来通りに工場へ送るPCの事前処理についても見直しました。処理対象のPCの中に役員が使っていたものがあったので、ファイル削除だけでなく、きちんとデータ消去した方がよいのではと考えました。

その時に、パーソナルメディアから何度かDMが届いていた「ディスクシュレッダー」のことを思い出したんです。

「ディスクシュレッダー」を検討した理由は 何でしょうか。

実は、経理部では10年ほど前からパーソナルメディアの法人税申告ソフト^(※)を使っています。決算時にはなくてはならないツールとなっていて、部内でもすごく評判がいいんです。そのため、パーソナルメディアに馴染みがあったのは確かですね。縁を感じたのでしょうか（笑）

私自身ソフトウェアに詳しいわけではなく、ふだん使っている法人税の申告ソフトの会社がつくった製品だから大丈夫かなって思って、ディスクシュレッダーの検討をはじめました。



大陽工業株式会社 総務部 箱崎久子氏
給与計算や社会保険の手続きなどの業務に従事。
経理部にも所属し、経理全般を担当。

会社名：大陽工業株式会社

設立：1947年（昭和22年）8月15日

所在地：東京都品川区西五反田8丁目11番21号

資本金：3億円

年商：68億8658万円（2011年3月）

従業員数：239名

事業内容：

プリント回路基盤製造、精密板金、精密機器開発、電子機器販売。人を活かすという理念を实践するため、早くから数多くの分社を行い、積極的な経営を展開。創業60年を超え、現在は20社による「分社グループ」の中核企業。

分社グループ

<http://www.bunshagroup.com/>

大陽工業は、ものづくりを開発、設計から量産までを対応、確かな技術と信頼に基づくトータルソリューションを提供できるお客様のベストパートナーを目指します。

新時代に不可欠な最新機器・装置のプリント配線基板の開発・設計・試作・量産、並びに光学機器、医療器、金融関連機器等の板金・塗装・実装・製品仕上げを社内二つのカンパニーで取り扱い、新規事業として微粒電流センサーやデマンド・コントローラ「NaCoa（ナコア）」の販売を始め、顧客ニーズにスピーディに対応できる社会貢献度の高い事業を展開していくことを志向しています。

^(※) 法人税全表：平成8年に発売を開始した税務申告書作成ソフトウェア <http://www.hojinzei.com/>

大陽工業株式会社
TAIYO KOGYO CO., LTD.

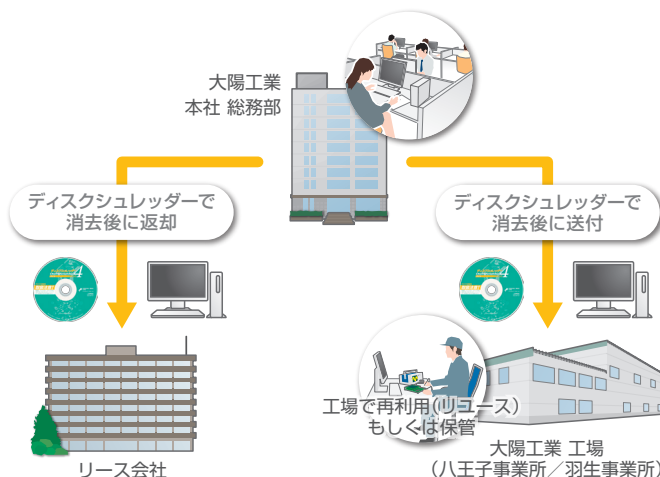
「総務や経理の業務をこなしながら、データ消去作業を行っています。
ディスクシュレッダーの操作はとても簡単なのでそれが可能なんです。」

「ディスクシュレッダー」をどのような形態で 利用されていますでしょうか。

まずは、リース物件のPCを返却する際に使っています。買取りのPCもディスクシュレッダーで消去後に、工場に送るようになりました。

消去作業はディスクシュレッダーのメディアを管理する総務部が担当しています。私でも使えました（笑）

総務や経理の業務をこなしながら、消去作業を行っています。ディスクシュレッダーの操作はとても簡単なのでそれが可能なんです。作業の予定をたてることができるので、消去にかかる時間や終了の予定時刻が表示されるのもいいですね。処理の時間も思ったほどかかっていないという印象です。



他社のデータ消去ソフトとは 比較されましたか。

簡単にインターネットで調べましたが、特に他の製品と比較して決めたわけではないですね。

先ほどもお話しましたが、ソフトウェアに詳しくないので、DMで送られてきたパンフレットやホームページで、ディスクシュレッダーのことを調べました。価格も手頃で、利用回数無制限という特長を稟議書に書いたら、すぐに通りました。

ディスクシュレッダーを使っていて ご不満な点はありますか。

はじめはマニュアルの薄さが気になりましたが、すぐに納得がきました。操作がとても簡単なので、マニュアルに頼る場面はほとんどないですね。

ほとんど何の問題もなく使えていますが、一度だけエラーが出て消去できなくて困ったことがありました。調べてみるとサーバー機だったようで、費用がかかりましたが、最終的にはレンタル会社の消去サービスを利用しました。

データ消去に関して今後の課題や 「ディスクシュレッダー」への要望をおしえてください。

PC環境に関しては、今後WindowsXPがどこまで使い続けられるのかがポイントになっています。主な業務である財務会計ソフトのXPへのサポート継続も重要なので、そういった動向にも注目しています。

いずれにしても、リプレースの際のデータ消去はセキュリティの観点から今後ますます重要となるので、総務部の役割としてしっかり対応していきたいと思っています。

ディスクシュレッダーは使い勝手がいいので、これからも使い続けていきたいですね。製品としてはある程度完成されているのではないのでしょうか。今後の製品もこの操作性は維持してほしいです。

導入製品

ディスクシュレッダー4・ライト
CD-ROM版 10,500円

- この記事は2011年6月の取材をもとに書かれたものです。
- 閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。



パーソナルメディア株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-29-1 コイズミビル
TEL.03-5759-8305 / FAX.03-5759-8306 / E-mail:sales@personal-media.co.jp / http://www.personal-media.co.jp/

■本製品は、T-Engineフォーラム (www.t-engine.org) のT-Licenseに基づきT-Kernelソースコードを利用しています。 ■ディスクシュレッダー、Disk Shredderはパーソナルメディア株式会社の登録商標です。
■その他商品名等は各社の商標や登録商標です。 ■機能向上や品質改良などのため、本カタログに記載された内容は予告なく変更されることがあります。

